

玉川上水を守り育てるむさしの市民の会 ニュース 第7号

2020年8月発行

発行者：玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会
事務所：武蔵野市八幡町 1-1-2 中里崇亮方

新型コロナウイルスの感染拡大がいつまで続くのか不安の毎日を過ごされていることと思います。先日役員会を開催し、第6回定期総会の開催を決定したところです(9月12日(火)14:00~16:00 西久保コミセン大会議室)。ご参加の方をよろしくお願いいたします。さて、本号では、昨年度後半部分本会および玉川上水ネットの活動報告を中里さん、渡辺さん、田畑さんに執筆してもらいました。少々固めの内容ですが読んでくださいね。

シリーズ 玉川上水(小平市域)を歩く

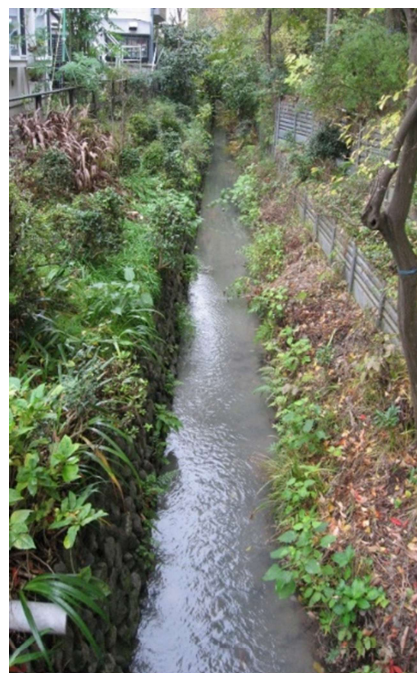
今回は、小平地域の玉川上水・分水網を歩き、実際に観て学ぶことを目指して次のように実施されました。

令和元年11月26日(火)午前9時20分、西武線柳沢駅改札集合、9時29分発拝島行に乗車、午前10時、玉川上水駅から玉川上水遊歩道を下流に向けて歩く。歩行距離約4キロ。久右衛門橋から「ふれあい下水道館」に立ち寄り見学、昼食をロビーで済ませ、午後1時20分、鷹の台駅で別れを惜しみ解散、参加人員は7名でした。

事前の準備として、11月1日、実際に歩いて確かめる「実踏」を3名(山脇・佐藤・渡邊)で行いました。また、実施のチラシをつくり、会員を中心に20名の定員を予定し、参加者に配布する関連資料「玉川上水歩こう会 しおり」を作成しました。

当日の天候は曇り、玉川上水360数年の歴史を秘めた晩秋の自然を歩くに相応しい天候でした。

まずは、多摩川の原水が流れ続けている清流豊かな玉川上水に入ります。しばらく歩くと、「小平監視所」につきあたり、この大規模な施設を観察し、果たしてきた役割を学ぶことはポイントの一つでした。



隣接する「玉川上水清流の復活碑」を読み、「新上水小橋」から復活清流の原流まで降り、水面に手を入れての観察も貴重でした(写真左)。

清流復活の玉川上水と源流を分水し、今も小平地域を潤す「新堀用水」(写真上)を左右に挟む遊歩道の景観は印象的でした。そしてまた、樹木・草花の観察や歴史を語り合っ

て交流を深めながら「久右衛門橋」まで歩きました。中里会長と「実踏」の2名に新人4名、合計7名にとどまりましたが、新人4名の方の関心の高さに励まされ、「百聞は一見に如かず」を確信しました。

(渡邊卓治)

第27回玉川上水緑の保全事業 都・区市連絡協議会に参加して

令和元年12月19日に都庁舎で午後2時半から4時半に亘り開催され、緑のまち推進課の谷津田さん、ふるさと歴史館の栗原さん、住民代表として中里と渡辺さんが出席致しました。羽村、福生、立川、小平、小金井、武蔵野、三鷹、杉並、渋谷の住民代表32人と各区市の玉川上水関連部署の職員22人と都の建設、水道、環境、政策企画の各局及び教育庁、東村山上水管理事務所など関連部署33人が出席しての連絡協議会です。

1、東京都からの報告

(1) 水道局から

①玉川上水管理作業の内容について上流部羽村取水口から小平監視所までの宅地内や遊歩道、車道に越境し支障をきたしている玉川上水内18か所の樹木の伐採や剪定を実施。

②「史跡玉川上水整備活用計画」に基づき、中流部（小平監視所から浅間橋間）の良好保存、親しまれる「水と緑の空間」の形成のための整備（住民説明会、倒木防止・小金井サクラ生育のための伐採、剪定、法面保全等）の実施

③玉川上水の保存整備実施について、法面保護工事61か所施工。

④玉川上水の活用整備について、桜を被圧する樹木の剪定・伐採を小金井市域を中心に約1Kmで実施。説明板7ヶ所に設置完了。小川・境水衛所跡の整備完了。フェンスデザインの統一化。各市策定の散策ルートについて、HP掲載提供。

⑤PR活動の強化として玉川上水関連情報を集約したサイトを開設。パンフレット作製。その他、作業説明会継続実施。伐採樹木の説明板への有効利用、譲渡等の報告。

(2) 教育庁より

小金井桜の苗圃について、苗木の用意は小金井市、苗圃の確保については市や建設局、水道局等も協力しながら進めていきたいと考えている。

(3) 環境局より

クビアカツヤカミキリは、外来生物法に基づく特殊外来生物に指定され、飼育、保管、輸入、販売、譲り渡し、野外へ放つことが禁止された。幼虫が桜、

梅、桃、柿などの木の内部を食い荒らし枯れ死させる害虫で、あきる野、福生、昭島の各市で、被害が発生・拡大している。

(4) 建設局より

玉川上水緑道の管理事項等について、上水沿いの道路補修に対応しているが、問題個所があればご指摘いただきたい。

2、住民団体からの連絡事項等

福生より遊歩道化、水路内の水草除去や清掃。小金井より小金井桜の後継樹の育成、クビアカツヤカミキリの侵入対策。三鷹より上水沿いの道舗装、法面崩壊の復旧、流水を阻害するごみの処理、ふじつるの処理。杉並よりタヌキのロードキル対策等の連絡があり、都が対処している。

3、住民団体の取り組み発表

(1) 玉川上水ネット・市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構100選（第2報）企画・選考

(2) 小平市玉川上水を守る会・玉川上水花マップ春～冬号の完成

(3) 玉川上水を守り育てる市民の会・玉川上水せせらぎ広場で虫の音を聴く夕べ9月6日開催、親子連れも目立った。

(4) 玉川上水・すぎなみの会・杉並地域に於ける植物調査（牟礼橋付近はアズマメザサの繁殖が多く野草は少ない。兵庫橋下流地域には早春にはアマナが多く、春から秋にはチダケサシ、ワレモコウ、釣鐘ニンジン、タカトウダイ等の野草が咲く様子が観察される。浅間橋上流近くは高木の本数多く地面は木漏れ日の当たる程度であるため、キンラン、山百合、ホウチャクソウなど貴重な野草が見られる。）

以上、協議内容についてです。長年の協議会において、初めのうちは住民団体の意見、要望を都が聞くことが多かったが、段々と都の取り組みが実績として報告されています。ただ各区市からの発言はなく、各区市の受け止め方も知りたいところです。市民に親しまれる玉川上水を目指すには、伐採を行う時には「お別れ式」とか、桜の補植の時には「植樹祭」など行うなども有効かと思います。蛍の再生の試みは50年近くになりますが、現状の水の流れで

は不可能とわかりました。蛍の住める環境づくりのためには、水の清流化と流れを堰き止める瀬づくり等が必要です。現時点での多摩川の水と下水処理水だけでは絶対量が足りません。将来にわたって玉川上水・分水網に清流復活を図るには雨水を大量に集め、貯蔵して調節しながら玉川上水に流しこむシス

テムをつくる研究が望まれます。松虫、くつわむし、かんたんなどの再生にはチガヤ、ススキ、よもぎ(もち草)など、根株から 30 cmを残す刈り方などの工夫が大切です。我が会としても建設的な意見要望をしていきたいと思っています。

(中里崇亮)

「市民が選んだ玉川上水・分水網関連遺構 100選」が公表される!!

武蔵野市域に部分的にせよ含まれている関連遺構 100 選の遺構名称は下記の 6 点です(境水衛所跡は全区間共通として別に取り上げられている)。なお写真は遺構名称を構成する武蔵野市域のものを使っている点をお断りしておきたい。

(18) 武蔵野雑木林・独歩の森

(境山野緑地)



(21) 都立井の頭恩賜公園と神田上水

神田上水の水源地でもある都立井の頭恩賜公園の池は三鷹市域に属するが、それにつながる御殿山は武蔵野市域



(19) JR 中央線三鷹駅周辺の緑と玉川上水保全再生

駅奥の緑が駅高架に伴う水路整備がなされた「せせらぎ広場」



(63) 境村分水と杵築大社

(江戸初期に勧進)



(20) 三鷹駅・井の頭公園をつなぐ風の散歩道

風の散歩道は三鷹市域にあるしゃれた玉川上水散策路であるが、武蔵野市域側も整備が進んでおり、井の頭自然文化園もその一角をなしている



(82) 千川上水 遊歩道(開渠遺構)

(平成元(1989)年清流復活事業)



「玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会」会員募集中!!

連絡先 : 山脇貞司 Tel/Fax 0422-51-0233 携帯 080-5060-6768
E-mail : jlsyama@kvd.biglobe.ne.jp

玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会主催 第4回シンポジウム 「玉川上水系保全再生への道」

2020年（令和2年）1月18日（土）に東京しごとセンター地下2階の講堂で200人余の参加により開催された。玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会の谷下雅義・辻野五郎丸両氏の司会により、進められた。

① 初めに国土交通大臣、東京都知事、武蔵野市長、小平市長、東大和市長などのメッセージの紹介があった。さらに事務局の細見寛氏よりこれまでのシンポジウムの経緯と第4回で総括したいこと、玉川上水・分水網・外濠・日本橋川の保全再生のつながりおよび、市民団体と行政、外濠に関係する関連大学等との関係について報告があった。

② 次に川村明氏による「武蔵野台地の水環境」と題した乾燥する武蔵野台地の地形地質と水理学的視点からの基調講演があった。

③ 続いて昨年実施した市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構100選、「わが町の玉川上水（上流、中流、下流）、外濠、日本橋川、分水（三田用水）」について6人からの報告があった。

④ これについて陣内秀信氏よりの講評が行われた。

⑤ 谷下雅義氏の司会により「玉川上水系保全再生への道」と題して今後の研究や展開について大学院学生、教員、玉川上水ネット・日本橋水辺再生研究会の代表者による意見交換が行われた。

⑥ さらに、代表である山田正氏によるシンポジウム全体の講評が行われた。

⑦ この講評を受けた第4回シンポジウム提言
・都心水辺環境再生のための浄化対策、オリンピックのレガシー

・玉川上水系の関連遺構の調査、水利や水文化の再認識
・玉川上水系の関連団体との交流、水の緑による連携の必要性等を骨子とする案が4項目ほどにまとめられ提示された。

最後にこれまでのシンポジウムのまとめとして、玉川上水・分水網保全再生連絡会の田畑貞壽により閉会のあいさつを兼ね、「今後の美しい水のながれと江戸から今日まで続く東京圏の水と緑、自然環境保全の街づくり手法の改善が具体化することが求められる」とのコメントがあった。

東京都は昨年暮に「未来の東京」戦略ビジョンを発表した。この中には第1回から3回にわたって提言されてきた玉



閉会挨拶 田畑貞壽（千葉大学名誉教授）

川上水・分水網の水循環システムの再生等についても触れられており、玉川上水や外濠、日本橋川等へ河川水を流すことの可能性や外濠の浄化への道筋も具体化されつつある。

一方では、住民運動による玉川上水の保安全管理についての活動は未来遺産運動として登録され、6年が経過した。その一つである今回の玉川上水分水網関連遺構100選の結果は玉川上水・分水の関連遺構の史跡指定や利活用への関心も一層高まってきたといえよう。

玉川上水域の水循環再生から世界に誇る水と緑の回廊づくりへ、東京圏のグリーンインフラの追求にもつながる内容であり、そして東京圏の水と緑の世界遺産—玉川上水の保全再生の方向を「地域コミュニティ」の住民の皆さんや、関係する基礎自治体、都、国によって計画的に進める時期も近いうちにやってくるかと思います。関係した団体の皆さんの熱意に改めて敬意を表します。

下記資料は第1回～第3回シンポジウムと第4回シンポジウムとの関係および、今後の具体的に進めるべき方向性を示したものです。

（田畑貞壽）

